

No.79

すくらむ

2013.3.発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

特別支援教育センターの取組みから

P2

福井県教育庁高校教育課特別支援教育室から
発達障害児教育推進チームの取組みについて

P3

シリーズ研修 報告

P4

特別支援教育あらかると
『特別支援教育専門研修をとおして
みえてきたこと』

進級に伴う学年間の引き継ぎと個別の指導計画の活用

3学期になり、園や学校間では、就学先・進学先に支援の必要な子どもの情報を引き継ぐ「移行支援」を行っているところも多いと思います。「小1プロブレム」や「中1ギャップ」といったつまずきはよく知られていますが、校内においても、学年が上がることは子どもにとって意外に大きなハードルになることがあります。

センターが受けている教育相談の中には、「小学校低学年のうちはどうもいっていたのに、3年生になって気がかりな行動が目立ち始めた」といったケースがあります。同じように5年生や中学2年生になり、困りが表面化してくることがあります。新年度には、担任が変わる、クラス替えがある、教室の位置が変わる、新しい教科が始まる、授業の内容が難しくなるなど、同じ学校の中とはいえ子どもたちにとって大きな環境の変化が待っています。こんなときにも活用できるのが、個別の指導計画です。年度末に評価を記入することで、どのような支援が有効だったかを整理することができます。また、過去の様子を振り返ることができ、どのような困りが表れるか予測しておくことも可能です。

ある小学校では、Aさんの支援の経過を話し合った支援会議の記録をファイルし、個別の指導計画として子どもの情報を共有してきました。年度末の異動で前担任は転任しましたが、支援会議に参加していた特別支援教育コーディネーターが新担任に引き継ぎを行いました。新担任は、説明を聞くだけでなく、ファイルを読み返すことでAさんへの理解を深め、新学期に向けて準備をすることができました。Aさんも、新しい環境に戸惑うことなく学校生活をスタートすることができました。



しかし、学校がどんなに準備をしても、新しい生活にうまくなじめない子どもや困りを抱えて戸惑う子どもが出てくることが予想されます。年度始めのさまざまな機会に、特別支援教育コーディネーターについて紹介し、子どもや保護者の不安をいち早くキャッチする窓口として、すべての保護者に周知しておくことが大切です。

発達障害児教育推進チームの取組みについて

今年度より、県教育庁高校教育課特別支援教育室内に他部局連携による「発達障害児教育推進チーム」が設置されました。発達障害のある子どもたちや何らかの支援・指導が必要な子どもたちに、就学前から就労まで途切れない支援・指導を継続して行っていくことを目的とした組織です。メンバーは、特別支援教育室や特別支援教育センター、嶺南教育事務所、教育研究所、大学私学課などの教育関係機関に、福祉、労働などの県の関係部局を加えた13名で構成されております。これまでチームで検討し、取り組んできた主な活動を紹介します。

(1) 発達障害や支援・指導を必要としている子どもたちとその教育への理解に向けて ～5歳児の保護者向けパンフレット、県民向けホームページ～

発達障害や支援・指導を必要としている子どもたちのことや、適切な教育的取組みについては、対象となるお子さんや保護者の方に安心して支援や指導を受けていただくためにも、保護者だけでなく、一般の方にも理解を深めていただくことが大切です。

そこで、昨年12月に「5歳児の保護者向けパンフレット」を作成するとともに、この3月末には「県民向けホームページ」を開設する予定です。



(2) 支援・指導の充実に向けて ～指導実践事例集～

発達障害や支援・指導を必要としている子どもたちは、一人ひとり状況が異なるため、支援・指導の方法も個に応じた考え方が必要です。そこで、教育や保育の現場で頑張っておられる方々の参考となるよう、特別支援教育センター、嶺南教育事務所特別支援教育課の指導主事や、県下の小中学校の教員が実践してきた支援・指導の実例を「指導実践事例集」としてまとめることにしました。今年度末には「学習面でつまずいている子たち」、平成25年度に「集中が難しい、落ち着きがない、衝動性のある子たち」、平成26年度に「コミュニケーションや社会性に困難さがある子たち」（いずれも仮題）と順次作成する予定です。

(3) 学校全体で取り組む 体制づくりに向けて ～福井県版個別の指導（支援）計画～

昨年12月末に「福井県版の個別の指導（支援）計画」の小・中学校版と中・高等学校（進路用）版を作成し、一部の市町で試用をお願いしています。A4判裏表1枚のコンパクトで、記入しやすい様式になっています。さらに修正を加えて、全県下で使用できるようにしたいと考えています。

(4) 早期からの途切れない支援の継続に向け ～「子育てファイルふくいっ子」、移行支援ガイドライン～

学校の支援・指導や本人、保護者の努力が功を奏し、支援・指導が必要ないところまで状態像が改善する場合がありますが、担任交代や進学の際に引継ぎがなされない場合も多く見られます。認知などの偏りが要因で学習面につまずいていた子が、単なる学習嫌いや学習意欲がない子とみなされたり、人間関係でつまずきやすい子が不登校となってしまうことがあります。また、学校生活に適応し、学力も高く、有名な大学に進学できても、社会性が育っていないために就職がうまくいかずに、引きこもりなどになってしまう事例もあります。就学前や小学校段階で気づいたつまずきや支援・指導の内容をしっかりと引き継ぎ、学習面だけでなく、その子が将来社会に出るために必要な行動面、社会性の面での力を身につけるようにすることが大切です。

そこで、県では、自立を目指した、途切れない支援を行うため、保護者と園や学校が共に活用できる支援ファイルとして「子育てファイルふくいっ子」と、各園、学校が支援の引継ぎをいつ、どこで、だれが、どのようにしたらよいかを示した手引「移行支援ガイドライン」の試行版を作成しました。今年度はモデル地区（若狭町、小浜市、勝山市、坂井市）で試用し、来年度は修正を加えて各市町の保育や教育の現場に配布し、県下一円での普及を目指しています。



以上、今後も発達障害や支援・指導の必要な子どもたちに対して、学校、保護者、地域を含めてみんなで支援できる体制を作っていきたいと考えています。是非ともみなさんのご協力をお願いします。

シリーズ研修の報告

当センターで年間を通して開催した「特別支援教育ベーシック研修」「特別支援教育ステップアップ研修」「授業研究リーダー研修」の3つの研修について報告します。

特別支援教育ベーシック研修

ベーシック研修では初めて特別支援教育コーディネーターに指名された教職員や、コーディネーター的な役割を担う教職員を研修対象者とし、研修者の所属校における実践的研修を研究協議の場で省察しながら、特別支援教育コーディネーターとしての実践的力量を高めていくことを目的としています。今年度から幼稚園、特別支援学校の教諭も対象に加え、幼稚園2名、小学校26名、中学校10名、高等学校9名、特別支援学校4名の計51名が研修を受講し、研修（事例研究・研究協議や演習）を年6回実施しました。所属校での実践を報告し合う場では、校内支援体制づくりについて意見交換をし、子どもの将来を見据えた支援について考察しました。各市町で行われている特徴的な取り組みなど、他地区の情報を得る機会にもなりました。

受講者の声

地域の幼・小・中・高の先生方や各校の現状、ニーズを知る機会になりました。今後、地域の園・学校へ相談に出向く際の大きな情報になります。（特別支援学校教諭）

同じメンバーで数回グループ協議をしたことで、経過が理解しやすく話が深まりました。校内では広く教職員に呼び掛けて一緒に取り組み、特別支援教育が特別なものにならないようにしたいです。（高等学校教諭）



第6研修でのグループ協議の様子（2月）

他校の取り組みの中に自校に取り入れたいものがあり、とても参考になりました。他の校種の先生方と協議を行ったことで、移行支援の大切さも実感しました。（小学校教諭）

特別支援教育の視点は、今後ますます大きな意味を持つてくると思いました。これからも新たなことを学んでいきたいと思っています。（中学校教諭）

特別支援教育ステップアップ研修

所属校の実情に合わせて、園や学校ぐるみで特別支援教育の体制づくりに取り組む実践研修です。外部講師による学校訪問や助言を受けつつ、所属校での実践を研修会で振り返りながら進めてきました。A学校では年間4回、校内の研究会や現職研修に大学教官等の外部講師が訪問し、校内での取り組みを支えました。2～3月には、当センターの実践研究発表会や福井大学ラウンドテーブルなどで研修成果についての発表も行いました。

授業研究リーダー研修

子どもが主体的に学ぶ授業や授業研究会の運営について考える実践研修です。外部講師による学校訪問や助言を受けながら、所属校や研究会での実践を研修会で振り返りながら進めてきました。B学校では年間3回、校内の授業研究会に大学教官等の外部講師が訪問し、校内での取り組みを支えました。2～3月には、当センターの実践研究発表会や福井大学ラウンドテーブルなどで研修成果の発表も行いました。



ステップアップ研修、授業研究リーダー研修が合同で行った最終報告会の様子（1月）

外部機関が取り組みを支えてくださったことで、校内のコーディネーターだけでは難しかったと思われる取り組みも実践することができました。（ステップアップ研修受講者）

どのように進めていってよいのかわからなかった研究も校内の先生や外部の先生方に教えてもらう中で方向性が少しずつ固まり、授業改善を進めることができました。（授業研究リーダー研修受講者）

受講者の声



研究会の進め方だけではなく、主体的に児童が活動していくことはどういうことかを校内の先生方と共有できたことは、自分にとって大きな財産になりました。（授業研究リーダー研修受講者）

特別支援教育あらかると

特別支援教育センターの特別支援教育専門研修をとおしてみえてきたこと

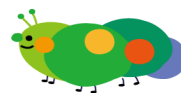


福井大学教職大学院
笹原 未来



福井県特別支援教育センターが開催している特別支援教育専門研修の大きな特徴の一つは、研修者が学校現場で直面している課題の解決と個別具体的な状況に対応できる実践的力量的の向上を目指した実践型の研修であるという点にある。研修者の学校における実践上の課題が中心に据えられた研修の中で、研修者の先生方は、通常の学級や通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校における授業づくりや、特別支援教育コーディネーターとしての支援体制づくりに、それぞれの学校の先生方と、そしてセンターの先生方と協働で取り組んできた。その過程においては、他者に自身の実践を語り、また他者の実践に自分自身を重ね合わせながら耳を傾ける中で、子どもにどのような力を培うのか、それを授業であるいは学校生活の中でどのように実現するのか、それを支えるためのシステムをどのように構築するのかといった本質的な問いに向き合い、自分自身の実践を問い直してきた。こうして、研修者の先生方は、歩みを止めて実践を振り返り、絶えず進むべき方向を確かめながら、次の一步をどのように踏み出すのかを考え、実践してきたのである。

このように、特別支援教育専門研修は、研修者の先生方が自ら課題を見つけ、他者と協働しながら主体的・自律的に課題の解決に向けて実践を続けることを支える研修である。こうした一連の取り組みは、今まさに求められている「生きる力」を教師自らが培うこと、そして「学び続ける教師」として歩み続けることを支えるものであるといえるだろう。また、こうした取り組みは、それぞれの学校現場を舞台としていることから、一人ひとりの研修者の資質能力の向上が、学校全体の特別支援教育の向上へとつながるものであるといえる。つまり、特別支援教育専門研修は、インクルーシブ教育システムの構築に向けた学校としての特別支援教育の専門性の向上をも後押しする取り組みであるといえるだろう。



センターだより すくらむ の 発行形態変更のお知らせ

今号は、この「センターだよりすくらむ」を電子化し、各御所属あてにメールに添付して発信していきます。

みなさんの御意見・御感想を
お待ちしております。



センターだより すくらむ 第79号

発行日 平成25年3月1日

発行所 福井県特別支援教育センター

所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1

TEL (0776)53-6574 FAX (0776) 52-6272

E-mail info@fukuisec.jp

URL <http://www.fukuisec.jp>

